

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 西淀川区

学 校 名 野里小学校

学校長名 芦高 浩一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・野里小学校では、第6学年 45名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和7年度の全国学力・学習状況調査では、国語科の平均正答率は全国平均が66.8%に対して本校は67%と、0.2%全国平均より上回っている。算数科では全国平均正答率は58%に対して本校平均正答率は54%と、4%下回っている。理科では全国平均は57.1%に対して本校では60%と2.9%上回っている。平均無回答率では、本校の国語科では0.5%（全国平均3.3%）、算数科では1.2%（全国平均3.6%）理科では0.4%（全国平均2.8%）であり、粘り強く最後まで回答に取り組んでいる様子が見えてくる。

## 分析から見えてきた成果・課題

## 教科に関する調査より

## 〔国語〕

自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、目的や意図に応じて簡潔に書いたりする問題では全国平均よりも平均正答率が5～6%高く、日頃より表現する学習に意欲的に取り組んでいることがうかがえる。

一方で、情報の扱いに関する事項では、全国平均より9.4%低い正答率となっている。文章と非連続テキストなどの情報が掛け合わされた時の読みの力の育成が喫緊の課題であると考えられる。

## 〔算数〕

データの活用・図形の学習区分に課題が感じられる。特に図形の作図や性質についての理解が不十分であり、図形の定義について知識を深める必要がある。

## 〔理科〕

結果を基に結論付け、表現する力が高まっている。特に趣旨の発芽に関する問いでは差異点や共通点を基に記述できた児童の割合が50%と、全国平均と比べ20.1%も高い結果となっている。

## 質問調査より

本校は令和6年度「自分の思いや考えを話し合い、主体的につながり合う子どもを育成する学級活動をめざして」を研究主題として教育活動を進めてきた。その結果、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に対し、45%、（全国平均40.9%）「人が困っているときには進んで助けていますか」の質問に対し、72.5%が最も肯定的な回答をしている。（全国平均49.2%）

また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対して95%が最も肯定的な回答をしている。（全国平均81.4%）

以上の結果より、話し合い活動を盛んに取り入れた結果、話し合いや仲間づくりに対して積極的に、協調しながら活動を進めていることがうかがえる。

## 今後の取組(アクションプラン)

本校は今年度、「書くことで自らの学びを広げ深める国語科学習指導～説明的な文章の実践を例にして」を研究主題として教育活動を進めている。

昨年度の研究で培った話し合い活動による自分の考えや読みの深まりを伝える力を、話すだけでなく書き表すことができるように指導を進める。児童自らが主体的に課題を解決するために、自分の考えを持ったうえで、グループで討議させながら意見を表現する活動を進める。

また、他者へ自分の意見を説明するためには、対象の物事に対する知識理解を深める必要がある。そこで、国語科では視写や意味調べを行ったり、算数科・理科では用語や性質などの知識を深めるために演習や課題に取り組んだりしながら学習の理解を深める。

---